かちまいスポーツ
記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶0120-25-9410

江陵 甲子園届かず

滝川西に1－3

夏の高校野球 北北海道大会

北の豪腕古谷 力尽きる

【旭川】第5日の20日は準決勝を行った。初の4強進出を果たした十勝代表の江陵は午後の第2試合で滝川西（空知）と対戦、追撃及ばず1－3で敗れ、決勝進出はならなかった。プロ注目の左腕古谷優人（3年）は、150㌔の速球を含む139球、12奪三振の力投で完投、打撃でも2安打と活躍し鮮烈な印象を残した。江陵の敗退で十勝勢の3校全てが姿を消すとともに、同支部からの連続甲子園出場はならなかった。決勝は21日午後1時から、初出場で優勝を狙うクラークと18年ぶり3回目の頂点を目指す滝川西の空知勢が、甲子園出場を懸けて対戦した。（内形勝也、塩原真）

【準決勝・江陵―滝川西】8回、ピンチを迎えマウンドに集まった江陵ナイン。古谷優人投手（左から3人目）は笑顔で深呼吸、この回を無失点に抑えた

◇準決勝

江　陵　000 000 100｜1
滝川西　100 010 10×｜3

江　陵	打数	安打	打点	三振	四死球	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
① 古　谷	5	2	0	1	0	左2……左飛……三振……右安……遊ゴ
④ 国　方	5	3	0	1	0	三振……中安……右飛……左安……中安
⑥ 佐　藤	4	1	1	0	0	左飛……三ゴ……右安……中犠……三ゴ
⑧ 酒　井	4	0	0	4	0	三振……三振……三振……三振……
⑦ 工　藤	4	1	0	1	0	……遊ゴ……中飛……三振……左安
⑨ 平　井	3	0	0	1	1	……四球……遊ゴ……左飛……三振
③ 中　村	4	1	0	2	0	……三振……二安……三ゴ……三振
⑤ 高　橋	2	0	0	0	1	……遊ゴ……四球……二失……
H 伏　見	1	0	0	1	0	……三振
② 大　井	2	1	0	0	1	……右安遊ゴ……二犠……四球
犠盗併残失						
2 0 0 1 1 2	34	9	1	11	3	

滝川西	打数	安打	打点	三振	四死球	①②③④⑤⑥⑦⑧
⑧ 大　坂	5	1	0	2	0	三振……三振……二ゴ……右2二飛
④ 安　居	1	0	0	0	2	四球……投犠……死球……遊ゴ
⑥ 堀　田	2	2	2	0	2	右安……四球……四球……右3
⑦ 有　馬	2	0	0	2	1	捕犠……三振……三振……四球
⑨ 奥　村	3	0	0	2	0	二ゴ……三振三振……
H 佐　野	1	0	0	1	0	……三振
9 年　藤	0	0	0	0	0	……
① 小野寺	4	0	0	1	0	……遊ゴ……二失……三振……三ゴ
② 萩　原	3	2	0	1	0	……三振……投犠……中安……右安
③ 齋　藤	3	0	0	2	0	……遊ゴ……振逃……三振……投犠
④ 秋　山	4	1	0	1	0	……二安遊ゴ……投ゴ……三振
犠盗併残失						
4 3 0 1 0 1	28	6	2	12	5	

	打数	安打	三塁打	四死球	自責点
古谷	8	3	7	1	2
小野寺	9	3	9	1	0

▽三塁打＝堀田（滝）△二塁打＝古谷（江）大坂（滝）▽盗塁＝安居2、堀田（滝）▽けん制死＝工藤（江）▽暴投＝古谷3（江）▽審判＝藤崎（東川）河井（旭川明成）茶畑（上富良野）阿部隆（旭川東栄）▽試合開始＝午後1時28分▽試合時間＝2時間5分

江陵は初回、先頭の古谷が左越え二塁打を放ち、先制のチャンスを迎えたが後続が倒れた。2点を追う七回、1死一塁から古谷が右翼線に安打、続く国方も左前打で続き、満塁の好機に佐藤の中犠飛で1点差に詰め寄った。最終回も大井の四球と国方の中前打などで2死一、二塁としたが、あと一本が出なかった。滝川西の先発・小野寺は11奪三振で完投、江陵打線に的を絞らせなかった。

今大会4試合目の先発登板となった古谷は、疲れから5四死球と3暴投ながら、毎回の12奪三振と要所で締め最後まで力投した。

スタルヒンに旋風

初勝利から一気に4強

【準決勝・江陵―滝川西】9回2死一塁、粘りの中前打で反撃の好機をつくる江陵の国方拳三

「負けたのは全て監督の責任。選手と命懸けで野球をやってきた。古谷はよく投げたし、みんなもよくやってくれた。3年生たちの頑張りは僕の財産」と、谷本献悟監督は涙を流した。

滝川西の校歌を聞きながらエースで主将の古谷優人は（3年）は人目もはばからず号泣した。その隣で国方拳三（同）は「ナイスピッチング。将来、お前がプロになって試練にぶつかったら、きょうの負けを思い出せば乗り越えられる。俺も進学して野球をやる。きょうの負けは忘れない」と慰め続けた。

プロ注目の左腕古谷を擁し、北・北海道大会で江陵は注目され、躍進した。

初日の15日は開幕戦で北大会初勝利。17日の2回戦、雨中で古谷は強打の旭川西を相手に最速154㌔のストレートを連発、毎回の12奪三振で度肝を抜いた。18日の準々決勝は球場の駐車場が観客の車であふれ、古谷は釧路工から大会新記録となる20奪三振を雨の中の激戦でマークした。

そして迎えた準決勝。滝川西から150㌔超のストレート、切れのあるスライダーで毎回の12奪三振を奪ったが、あと一歩及ばなかった。

古谷は「自分が打たれたせいで負けた。この仲間たちと野球ができたことを幸せに思う。もう少しこの仲間たちと野球をやりたかった」と唇をかんだ。

プロ野球初の300勝を達成したヴィクトル・スタルヒン投手の生誕100年に当たる今年、150㌔超の豪速球投手がスタルヒン球場に現れた。準決勝で姿を消したが、江陵の戦いぶりは鮮烈な記憶を残した。

追撃及ばず準決勝で敗れ涙を拭う江陵ナインら

全校生徒がテレビで応援

○…江陵高（鈴木譲二校長、生徒387人）の体育館では全校生徒と教員がテレビで観戦しながら応援。1球ごとに歓声を上げ、温かい拍手を送った。

チャンスに大声援を送る江陵の生徒ら

準々決勝までの全試合を友人と球場で応援した西山優菜さん（3年）は「練習を休まずに頑張っているのを見てきた。プレッシャーの中でもいつも通りの笑顔で頑張っていた。感動をありがとう」と涙を拭った。蘭部理央さん（3年）も「（古谷）優人はピンチでも笑顔で江陵らしい野球だった。九回の粘りもすごかった。お疲れさまでした」とねぎらった。

鈴木校長は「勝てば決勝は全校で応援に行く予定だった。負けても選手たちは輝いていた。夢をありがとう」と話していた。（眞尾敦）

文部科学大臣杯 あさ野球

タケシマSP初制覇

ワークを4－2 遠藤がMVP

軟式野球の第62回文部科学大臣杯争奪あさ大会（十勝毎日新聞社主催、帯広軟式野球連盟共催）最終日は21日午前5時から帯広の森平和球場で決勝を行い、タケシマSPオックスがワーク・ボーイズを4－2で破り初優勝を果たした。最優秀選手賞には六回から登板